

# ANAホールディングス株式会社 説明会

2020年3月期 第2四半期 決算説明会

2019年10月29日

代表取締役社長

片野坂 真哉



## 目 次

### 1. 2019年度 第2四半期決算

2019年度 第2四半期決算（概要）	P. 4
2019年度 通期業績予想（修正）	P. 5
事業別の戦略ポイントと進捗	P. 6
ANAハワイ戦略	P. 7
2020年度に向けた総仕上げ	P. 8
羽田空港の発着枠拡大	P. 9
ESG経営の推進	P. 10
今後に向けて	P. 11

### 2. 2019年度 第2四半期決算（詳細）

業績ハイライト	P. 14
連結決算概要	
経営成績	P. 15
財政状態	P. 16
キャッシュフロー	P. 17
セグメント別実績	P. 18
航空事業	
収入・費用	P. 19
営業利益 増減要因	P. 20
ANA国際旅客	P. 21-24
ANA国内旅客	P. 25-26
ANA国際貨物	P. 27-29
ANA国内貨物	P. 30
燃油・為替ヘッジ（ANA）	P. 31
LCC	P. 33-34
ノンエア事業	
航空事業以外のセグメント	P. 35

### 3. 2019年度 通期業績予想

連結業績予想	P. 38
セグメント別 計画	P. 39
航空事業 売上高・営業費用 計画	P. 40
航空事業 営業利益（当初計画との差異）	P. 41
計画前提	
ANA旅客事業	P. 43
ANA貨物事業	P. 44
LCC事業	P. 45

### 4. 補足資料

航空機数	P. 48
国際旅客 方面別実績（構成比）	P. 49
国際貨物 方面別実績（構成比）	P. 50
LCC 会社別実績	P. 51
ESG関連データ	P. 52

# 1. 2019年度 第2四半期決算



## 2019年度 第2四半期決算（概要）

## 1. 連結決算の状況

(億円)	実績	前年差	前年比
売上高	<b>10,559</b>	+179	+1.7%
航空事業	9,300	+142	+1.6%
営業利益	<b>788</b>	△263	△25.0%
航空事業	735	△275	△27.3%
営業利益率	7.5%	△2.7pt	-
経常利益	<b>815</b>	△214	△20.8%
親会社株主に帰属する 四半期純利益	<b>567</b>	△169	△23.0%
EBITDA	<b>1,647</b>	△172	△9.5%

## ➤ 取り巻く環境

- 1) 景況感の悪化（米中貿易摩擦など）
- 2) 地政学リスク（日韓関係、香港デモなど）



## ➤ 上期の業績

- 1) 売上高  
上期として2年連続で1兆円を超過  
但し、外部環境の悪化による影響が顕在化
- 2) 営業費用  
事業拡大に向けた先行費用を計上
- 3) 営業利益  
前年同期と比べて減益

## 2019年度 通期業績予想（修正）

### 1. 2019年度 通期業績予想の修正（連結）

(億円)	当初計画 (19.4.26開示)	今回修正*	当初差	前年差
売上高	21,500	<b>20,900</b>	△600	+316
営業費用	19,850	<b>19,500</b>	△350	+567
営業利益	1,650	<b>1,400</b>	△250	△250
営業利益率	7.7%	<b>6.7%</b>	△1.0%	△1.3%
経常利益	1,600	<b>1,370</b>	△230	△196
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,080	<b>940</b>	△140	△167
1株あたり配当金	75円	<b>75円</b>	—	—

#### ▶ 売上高の修正（主な要因）

- 1) ANA国際貨物  
・需要の低迷が継続
- 2) ANA国際旅客  
・ビジネス需要が弱含み
- 3) LCC  
・韓国線の需要減少

[下期市況前提] → 修正なし

(為替)

・円/米ドル ¥110/US\$

(燃油)

・ドバイ原油 \$65/bbl

・シンガポールケロシン \$80/bbl

\* 上期実績+下期見通しを反映

## 事業別の戦略ポイントと進捗

	戦略のポイント	上期の取り組み	下期のアクションプラン
Inspiration of JAPAN			
国際旅客	2020年度の増枠対応 (羽田)	来期に向けた人材・機材の万全な準備	
	ネットワークの拡大 (成田)	成田ーパース線 (9/1 就航)	成田ーチェンナイ線 (10/27 就航) 成田ーウラジオストク線 (2020/3/16 就航予定)
国内旅客	国内線運賃の改革	新運賃戦略による単価向上	プレミアムクラス増席 (2019秋~) 機内プロダクトの品質向上
国際貨物	需要動向に応じた 柔軟な供給コントロール	大型フレイターの就航 (7/2 就航)	生産量の調整による 収益性改善
LCC	競争激化への対抗策	イールドマネジメント強化	就航路線の再構築

# ANAハワイ戦略

## 1. 目的

### 1) 圧倒的な座席数を活かしたビジネスモデルの改革

- ① 新たなプロダクトとサービスの展開
  - ・ファーストクラス、カウチシートの設置
- ② マイル利用機会の拡大
  - ・現地でのマイル提携強化、特典航空券の利用者拡大
- ③ 旅行商品の充実

### 2) ハワイにおける地域経済への貢献

- ① 地元と協力したイベントの開催
  - ・「ANA HONOLULU MUSIC WEEK」の開催
- ② 環境保全活動の推進

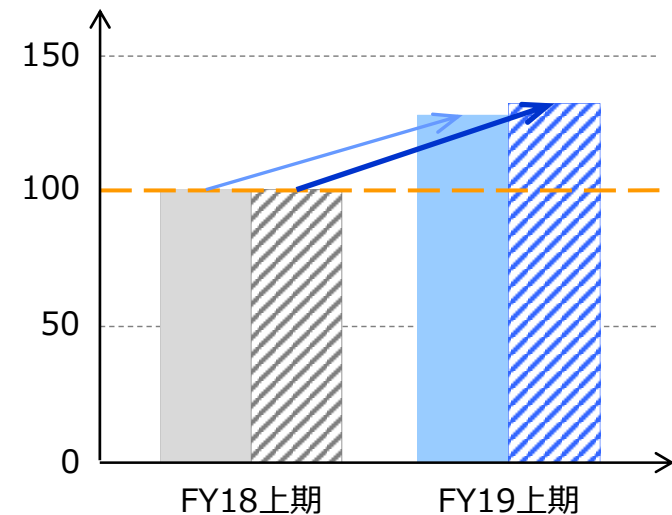
日本＝ハワイ間の旅客数シェア拡大

ANAネットワーク全体の競争力向上

## 2. 上期実績の前年同期比較

(指数) FY18上期実績=100

■ 座席キロ ■ 旅客キロ (無償旅客を含む)



2019年度 上期  
座席キロ・旅客キロ ともに約**1.3倍**  
(前年同期比)

# 2020年度に向けた総仕上げ

	戦略テーマ	主な取り組み項目
安全	ボーイング787型機 エンジン問題への対応	エンジンメーカーから改良型パーツを計画通りに受領 (2020年度から全てのボーイング787型機を稼働予定)
基本品質	品質・サービスの向上	ANA国際線における新プロダクトの導入 (B777-300ER) 国内基幹空港における「ANA FAST TRAVEL」の拡大
	人財の確保・育成	客室乗務員・空港グランドスタッフの採用強化 総合トレーニングセンターの運用開始 (2019年4月15日~)



安全と品質・サービスの総仕上げを着実に実施



2020年度以降、「成長の加速」へ



## 羽田空港の発着枠拡大

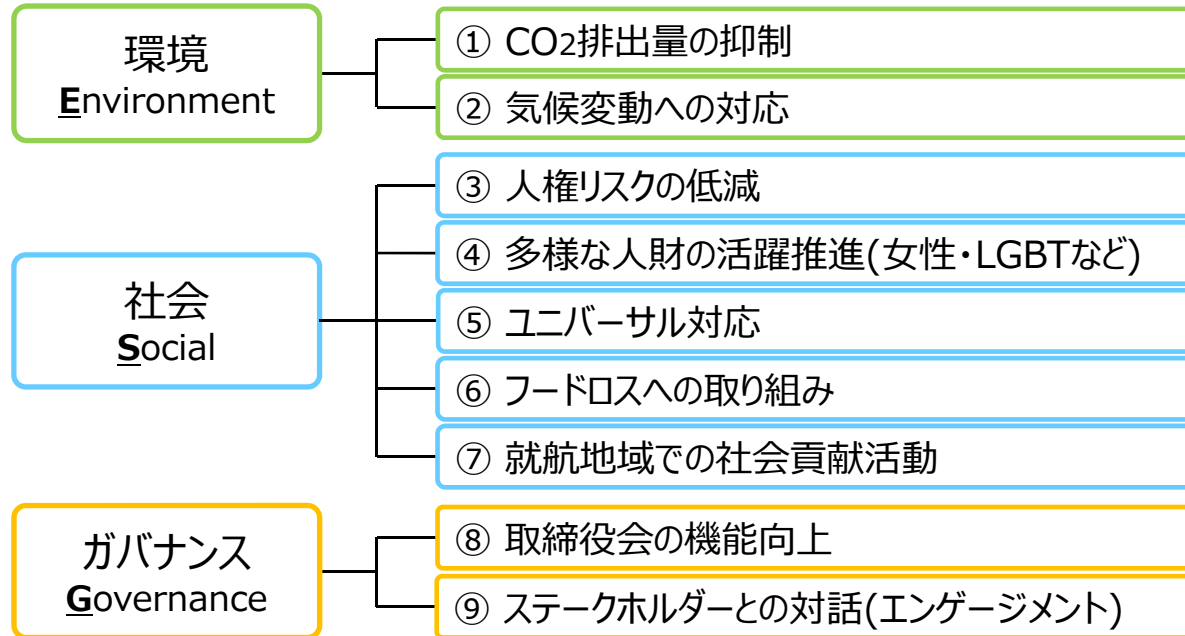
### 1. ANAへの配分 (2019/9/2 国土交通省リリース)

国名	配分数 (往復/日)	ANAの新規就航国 (現時点で未就航)	羽田空港 昼間時間帯における ANAの新規就航国
米国	6		
ロシア	1	○	
イタリア	1	○	
トルコ	1	○	
スカンジナビア	1	○	
オーストラリア	1		○
インド	0.5*		○
中国	2		
合計	13.5	4ヶ国	2ヶ国

\* 深夜・早朝枠と組み合わせて1往復/日を運航予定

# ESG経営の推進

## 主な重点課題



MEMBER OF  
**Dow Jones Sustainability Indices**  
In collaboration with

「Dow Jones Sustainability World Index」の構成銘柄に  
3年連続で選定 (2019年10月)

FTSE4Good

FTSE Blossom Japan

「FTSE4Good」の対象銘柄に  
2006年から14年連続採用(2019年6月)

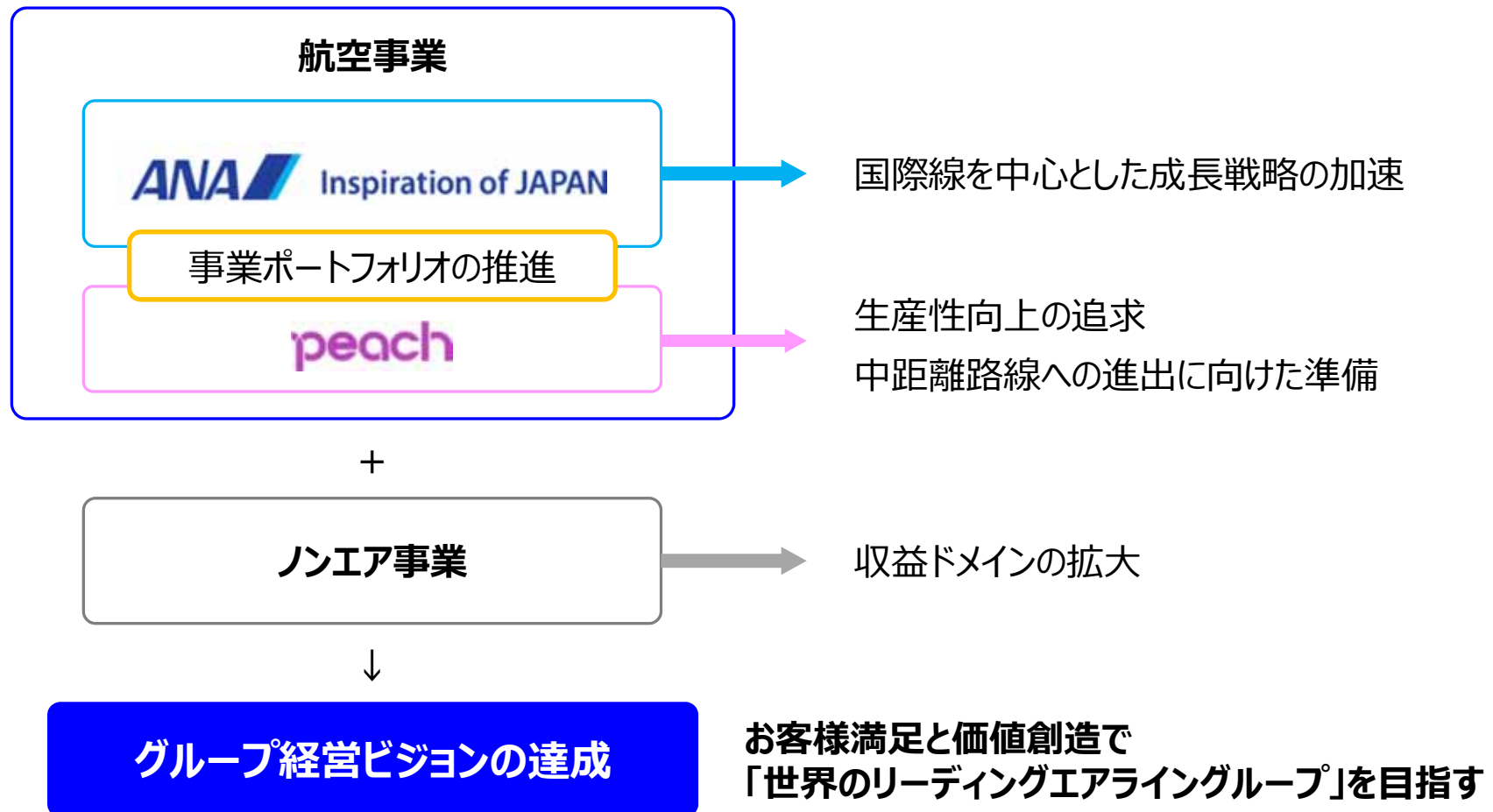
TASK FORCE ON CLIMATE-RELATED FINANCIAL DISCLOSURES

日本のエアライングループとして初めて  
TCFDへの賛同を表明 (2019年3月)

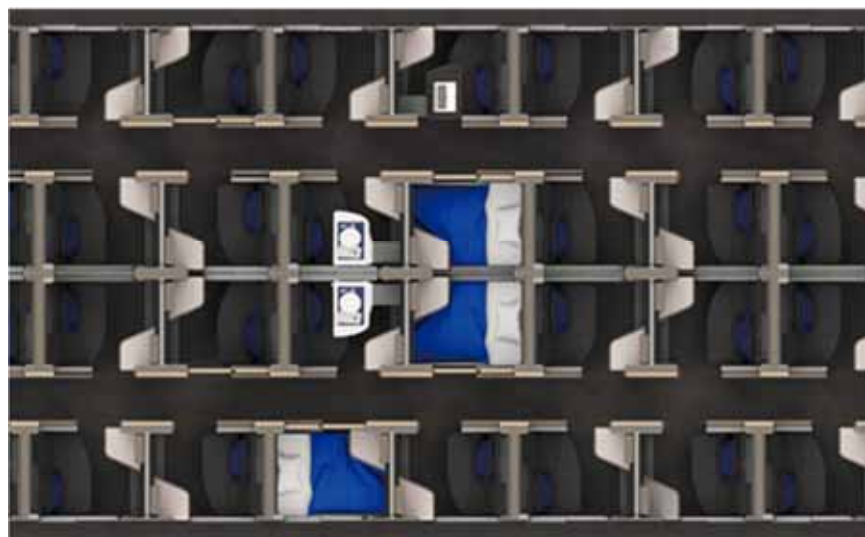
## 今後に向けて

## 1. 今後の経営計画

2022年度までの経営計画をローリング



## 新ビジネスクラスシート “THE Room”



対象機材：ボーイング777-300ER型機

就航路線：東京－ロンドン線

※2020年3月末までに就航予定

東京－ニューヨーク線

東京－フランクフルト線



## 2. 2019年度 第2四半期決算（詳細）



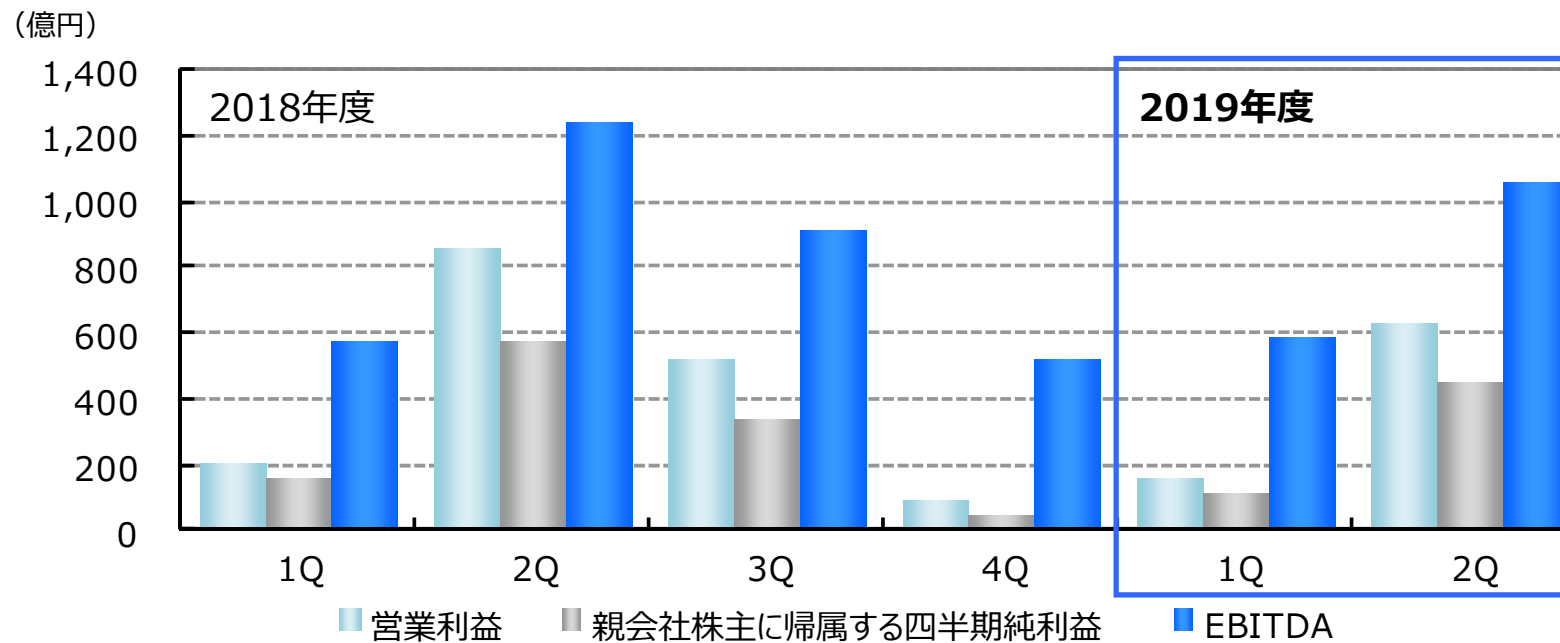
## 当第2四半期と前年度各四半期の業績比較

## 【2019年度 第2四半期 累計 (連結)】

- 営業利益 : 788億円 (前年同期比 △ 263億円)
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 567億円 ( 同 △ 169億円)
- EBITDA : 1,647億円 ( 同 △ 172億円)

## 【第2四半期 (7-9月期) (連結)】

- 営業利益 : 627億円
- 親会社株主に帰属する四半期純利益 : 453億円
- EBITDA : 1,064億円



## 経営成績

(億円)	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差	FY2019 第2四半期	前年差
売上高	10,380	10,559	+ 179	5,554	+ 23
営業費用	9,328	9,771	+ 442	4,927	+ 247
営業利益	1,052	788	△ 263	627	△ 224
営業利益率 (%)	10.1	7.5	△ 2.7pt	11.3	△ 4.1pt
営業外損益	△ 22	26	+ 49	17	+ 33
経常利益	1,029	815	△ 214	644	△ 190
特別損益	0	26	+ 26	22	+ 22
親会社株主に帰属する四半期純利益	737	567	△ 169	453	△ 122
四半期純利益	742	573	△ 169	460	△ 120
その他包括利益	434	△ 114	△ 548	△ 77	△ 210
包括利益	1,176	458	△ 717	382	△ 331

## 財政状態

(億円)	FY2018 期末	FY2019 第2四半期末	前年度 期末差
総資産	26,871	27,180	+ 309
自己資本	10,994	11,192	+ 198
自己資本比率(%)	40.9	41.2	+ 0.3pt
有利子負債残高	7,886	8,187	+ 301
D/Eレシオ (倍)	0.7	0.7	+ 0.0
純有利子負債残高 *	4,949	5,052	+ 102

\* 純有利子負債残高 = 有利子負債残高 - (流動資産 (現金及び預金 + 有価証券))



## キャッシュフロー

(億円)	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差
営業キャッシュフロー	1,597	1,403	△ 194
投資キャッシュフロー	△ 1,228	△ 1,125	+ 103
財務キャッシュフロー	△ 408	3	+ 412
現金及び現金同等物の増減額	△ 29	274	+ 303
現金及び現金同等物の期首残高	2,705	2,118	} + 280
現金及び現金同等物の期末残高	2,676	2,398	
減価償却費	767	858	+ 91
設備投資額 (固定資産のみ)	1,695	1,810	+ 115
実質フリーキャッシュフロー (3ヶ月超の定期・譲渡性預金を除く)	245	196	△ 48
EBITDA (営業利益 + 減価償却費)	1,819	1,647	△ 172
EBITDAマージン (%)	17.5	15.6	△ 1.9pt

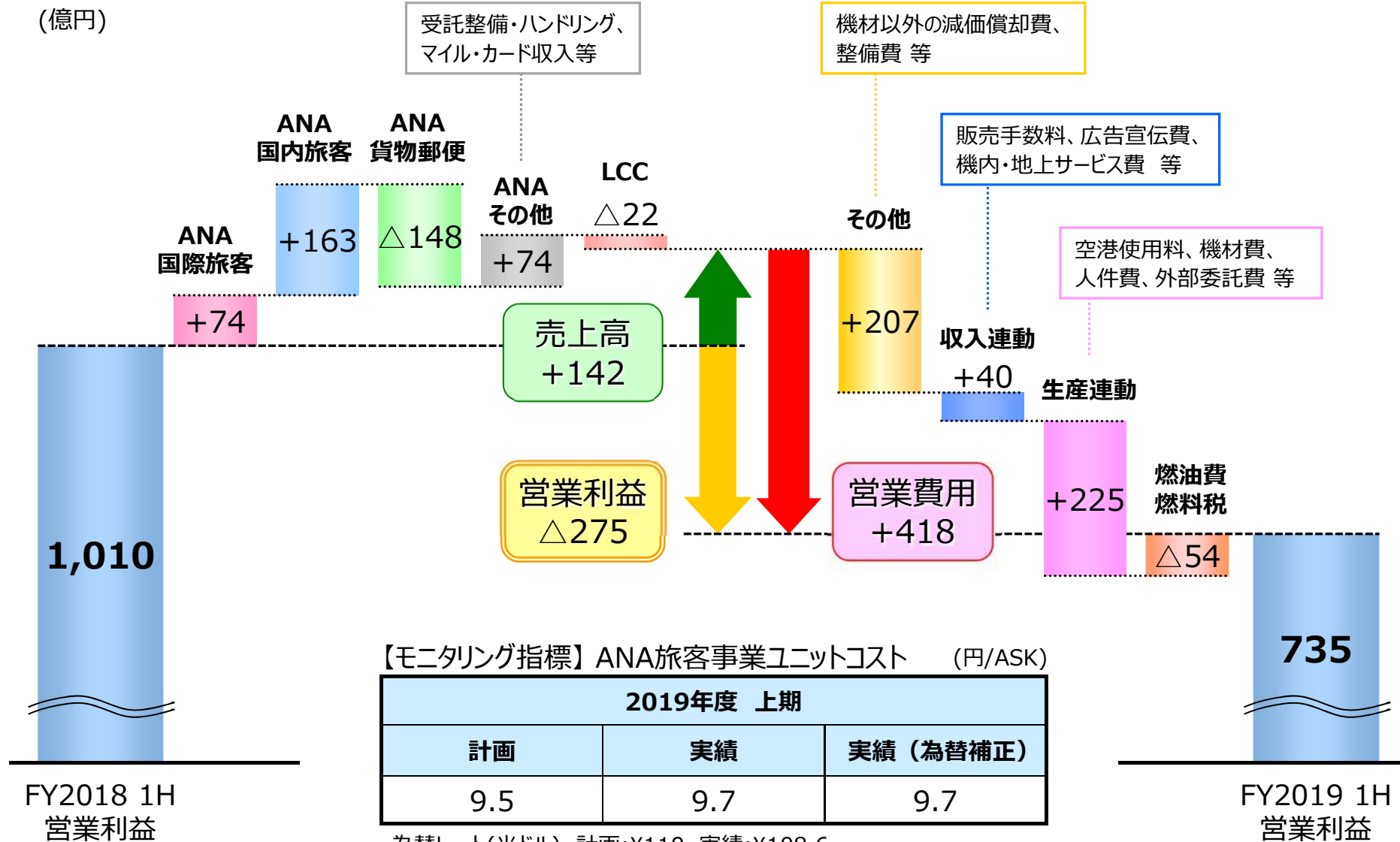
## セグメント別実績

	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差	FY2019 第2四半期	前年差	
(億円)						
売上高	航空事業	9,158	9,300	+ 142	4,903	+ 9
	航空関連事業	1,452	1,490	+ 37	751	△ 1
	旅行事業	797	823	+ 26	441	+ 4
	商社事業	750	759	+ 8	384	+ 2
	その他	194	209	+ 15	105	+ 5
	調整額	△ 1,971	△ 2,022	△ 51	△ 1,030	+ 2
	合計 (連結)	10,380	10,559	+ 179	5,554	+ 23
営業利益	航空事業	1,010	735	△ 275	593	△ 233
	航空関連事業	76	74	△ 2	35	+ 1
	旅行事業	6	13	+ 6	9	+ 1
	商社事業	17	19	+ 1	11	+ 1
	その他	12	15	+ 3	9	+ 3
	調整額	△ 72	△ 68	+ 3	△ 33	+ 1
	合計 (連結)	1,052	788	△ 263	627	△ 224

## 収入・費用

(億円)		FY2018	FY2019	前年差	FY2019	前年差	
		第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期		
売上高	ANA 国際旅客	3,310	3,385	+ 74	1,744	△ 4	
	ANA 国内旅客	3,523	3,687	+ 163	2,024	+ 70	
	ANA 貨物郵便	825	676	△ 148	333	△ 77	
	ANA その他	1,014	1,088	+ 74	545	+ 38	
	LCC	483	461	△ 22	255	△ 16	
	合計	9,158	9,300	+ 142	4,903	+ 9	
営業費用	燃油費・燃料税	1,715	1,660	△ 54	841	△ 17	
	空港使用料	613	621	+ 8	315	+ 5	
	航空機材賃借費	607	646	+ 38	325	+ 14	
	減価償却費	735	822	+ 86	418	+ 42	
	整備部品・外注費	690	848	+ 158	402	+ 83	
	人件費	1,034	1,066	+ 32	540	+ 23	
	販売費	546	556	+ 10	276	+ 6	
	外部委託費	1,179	1,276	+ 96	644	+ 52	
	その他	1,024	1,066	+ 41	544	+ 31	
		合計	8,147	8,565	+ 418	4,309	+ 243
	営業利益	1,010	735	△ 275	593	△ 233	
EBITDA (営業利益+減価償却費)		1,746	1,557	△ 189	1,012	△ 191	
EBITDAマージン (%)		19.1	16.7	△ 2.3pt	20.6	△ 4.0pt	

## 営業利益 増減要因



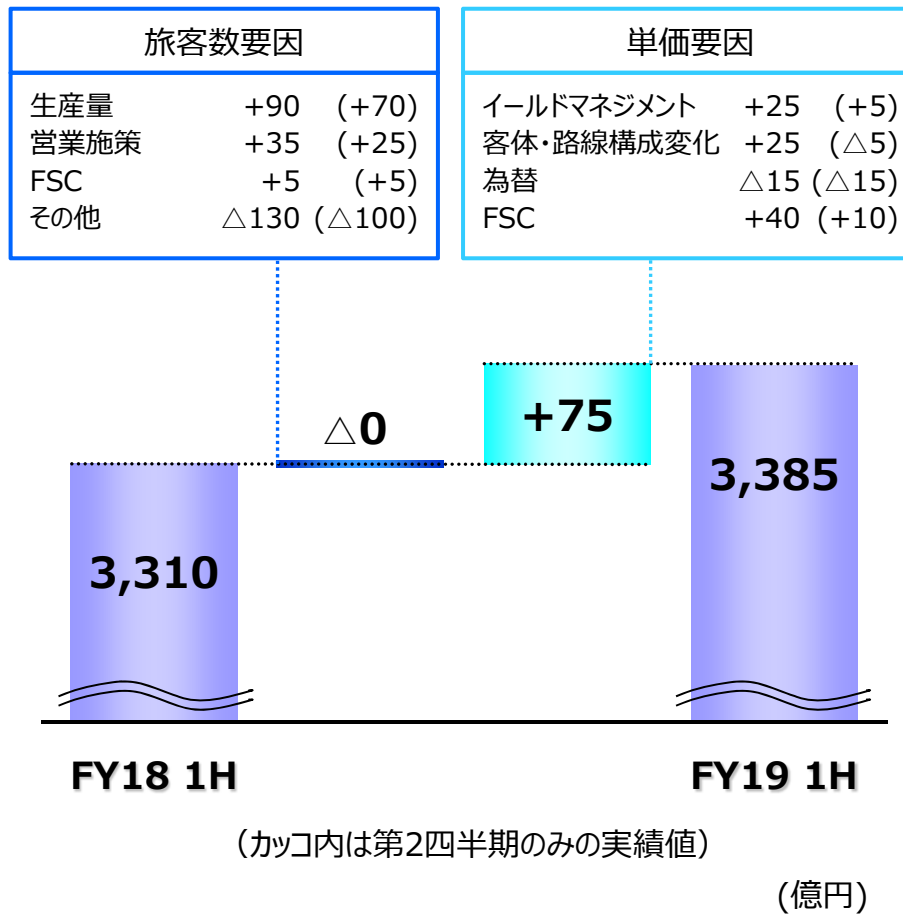
## ANA国際旅客

	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年比(%)	FY2019 第2四半期	前年比(%)
座席キ〇 (百万)	33,315	34,893	+ 4.7	17,755	+ 6.3
旅客キ〇 (百万)	25,788	26,805	+ 3.9	13,887	+ 4.6
旅客数 (千人)	5,172	5,172	△ 0.0	2,665	+ 0.1
座席利用率 (%)	77.4	76.8	△ 0.6pt*	78.2	△ 1.3pt*
旅客収入 (億円)	3,310	3,385	+ 2.3	1,743	△ 0.2
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キ〇)	9.9	9.7	△ 2.4	9.8	△ 6.1
イールド (円) (旅客収入/旅客キ〇)	12.8	12.6	△ 1.6	12.6	△ 4.6
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	64,000	65,453	+ 2.3	65,434	△ 0.3

\* 座席利用率のみ前年差

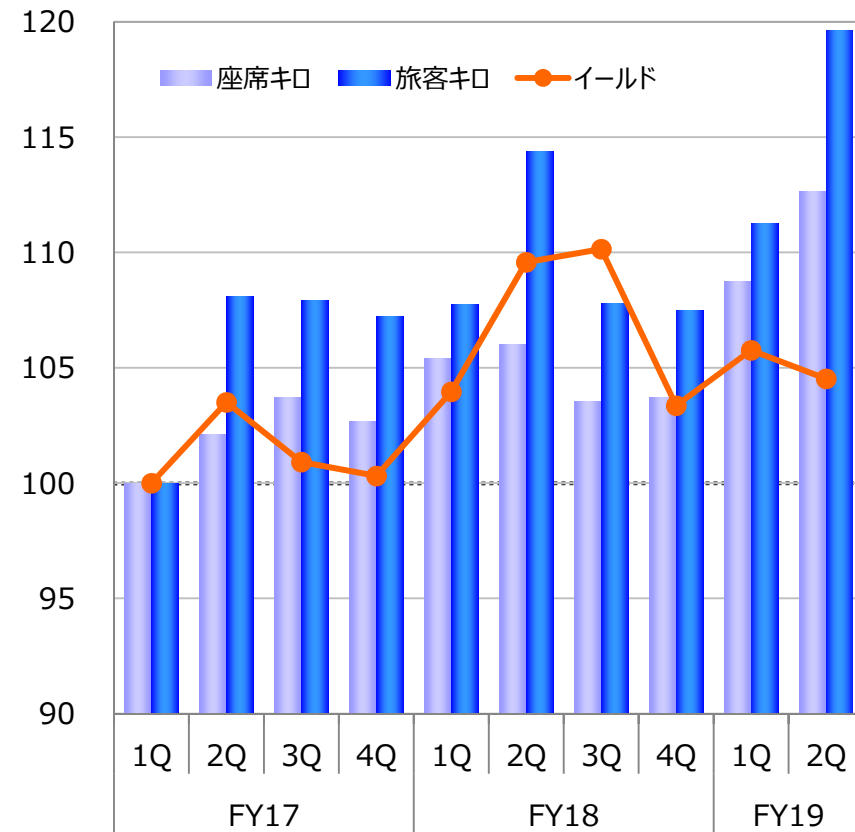
## ANA国際旅客（事業動向）

## 第2四半期累計 収入増減要因



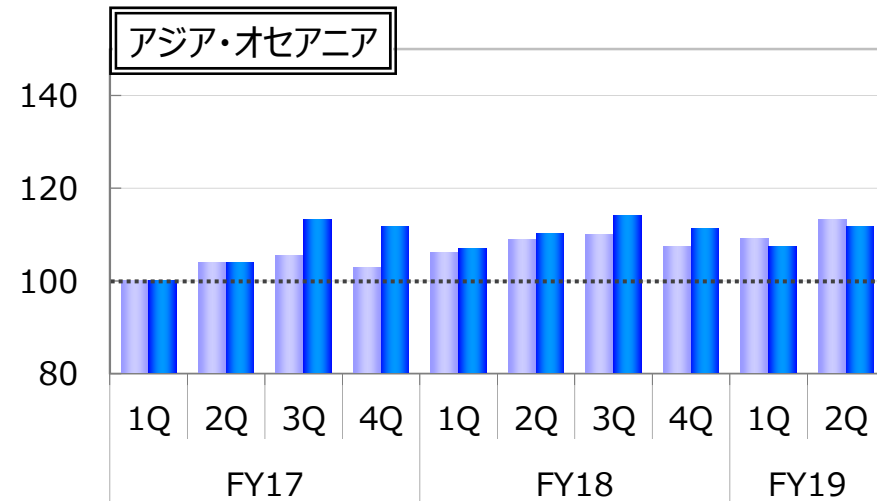
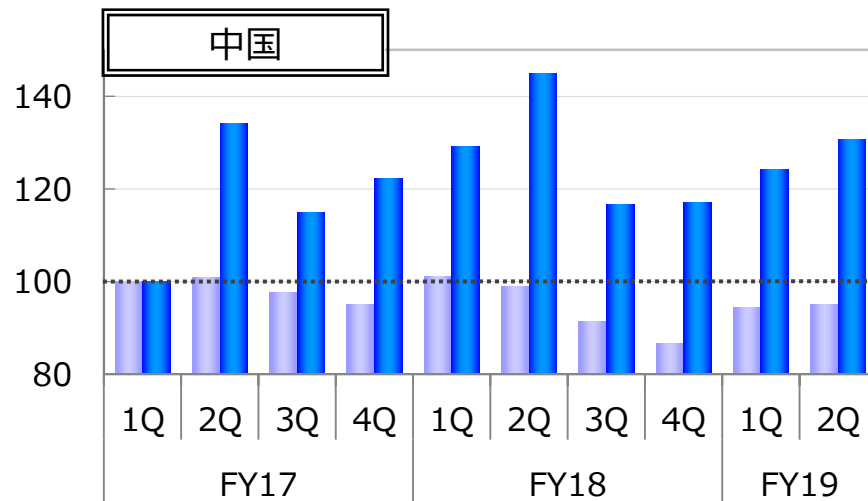
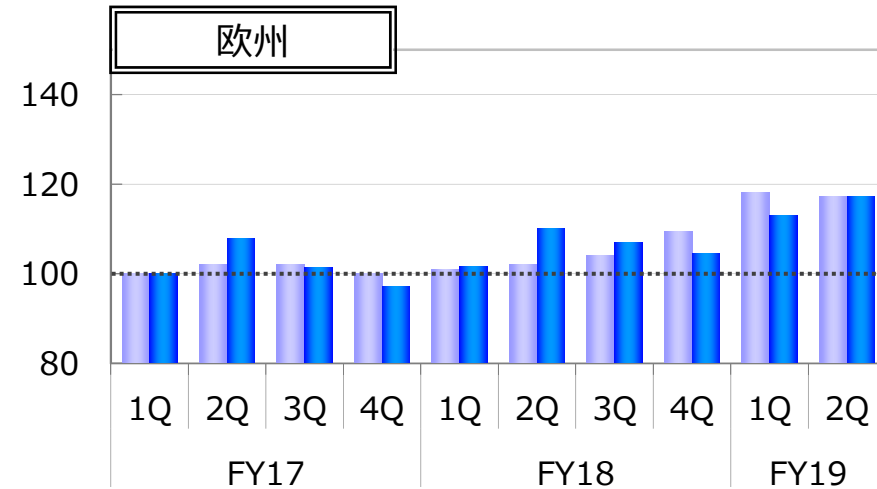
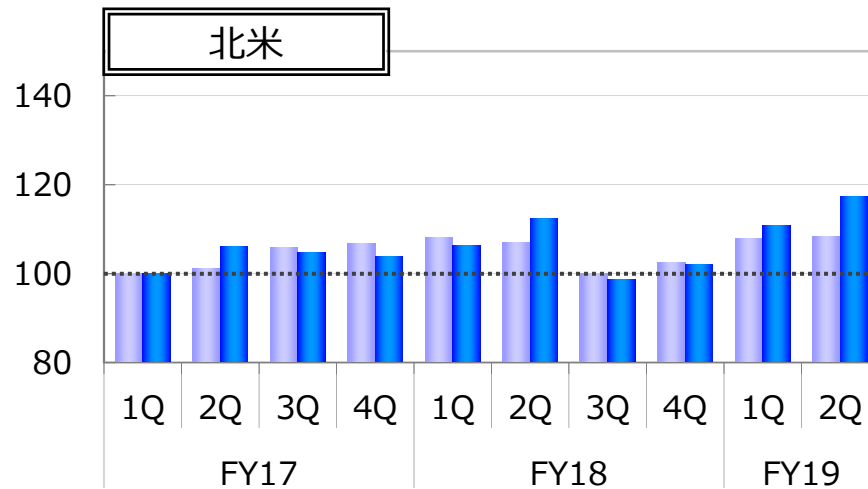
## 四半期別 実績推移

指数 (FY17 1Q=100)



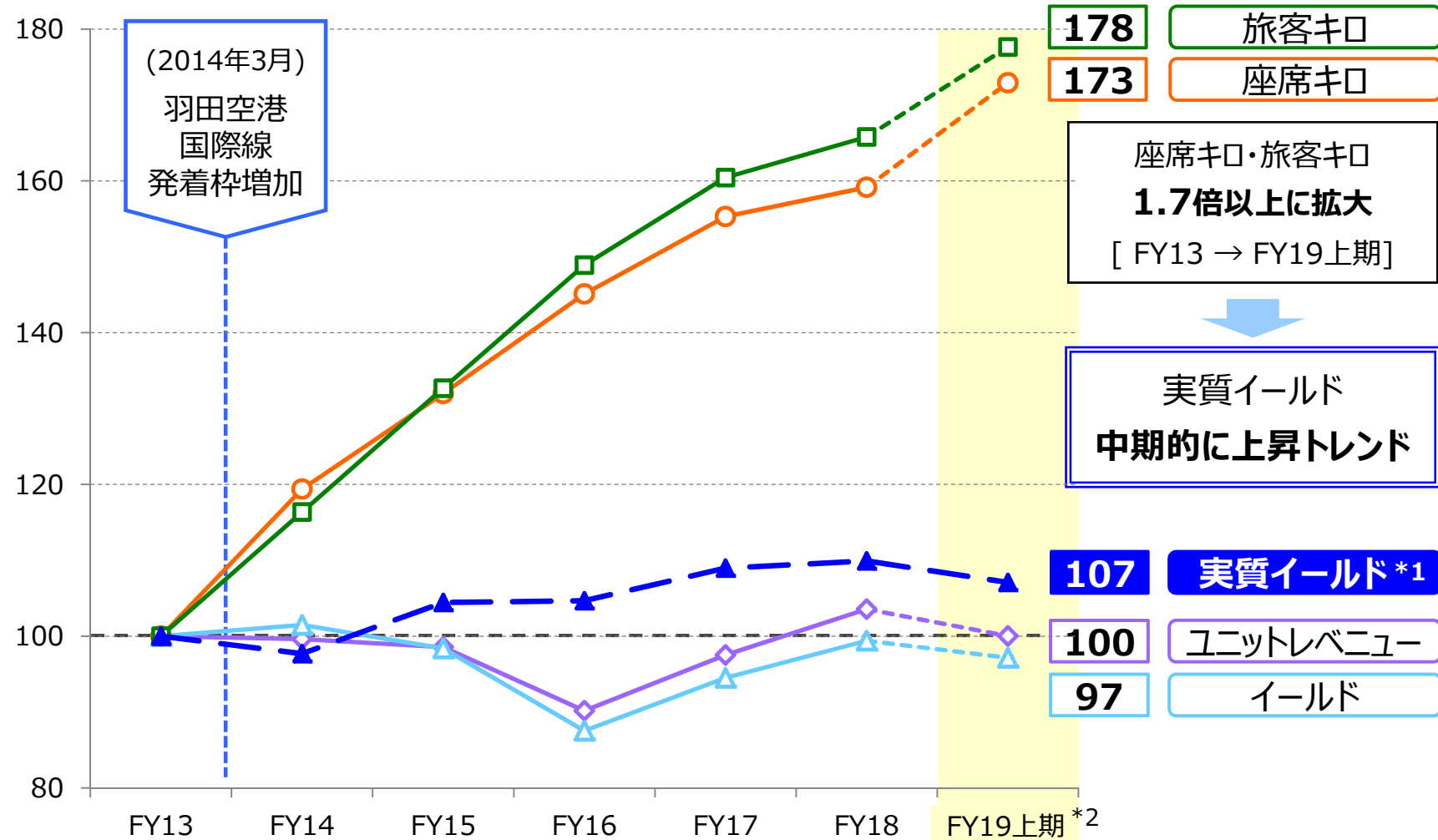
## ANA国際旅客（四半期別・方面別 推移）

指数 (FY17 1Q=100)    ■ : 座席キロ    ■ : 旅客キロ



## ANA国際旅客（イールドの推移）

指数 (FY13実績=100)



\*1：燃油サーチャージ、為替の影響を除いたイールド

\*2：指数 (FY13上期実績 = 100)



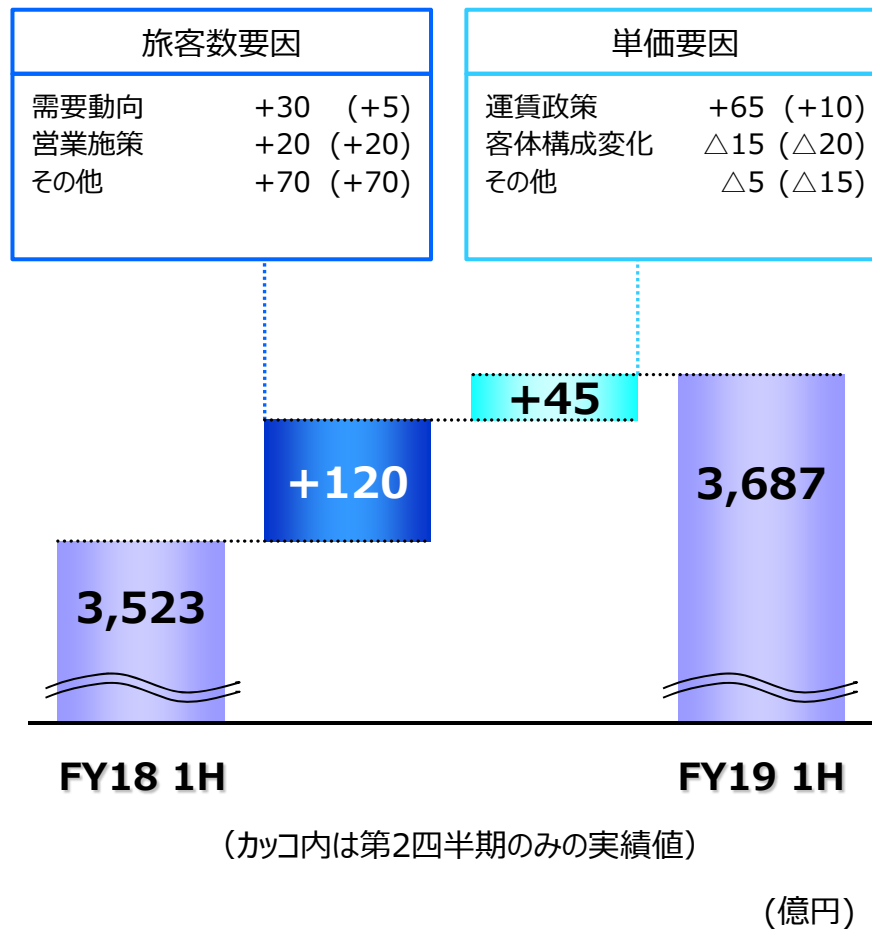
## ANA国内旅客

	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年比(%)	FY2019 第2四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	29,372	30,251	+ 3.0	15,469	+ 4.4
旅客キロ (百万)	20,511	21,293	+ 3.8	11,380	+ 5.0
旅客数 (千人)	22,340	23,102	+ 3.4	12,261	+ 5.1
座席利用率 (%)	69.8	70.4	+ 0.6pt*	73.6	+ 0.4pt*
旅客収入 (億円)	3,523	3,687	+ 4.7	2,024	+ 3.6
ユニットレベニュー (円) (旅客収入/座席キロ)	12.0	12.2	+ 1.6	13.1	△ 0.8
イールド (円) (旅客収入/旅客キロ)	17.2	17.3	+ 0.8	17.8	△ 1.3
単価 (円) (旅客収入/旅客数)	15,772	15,961	+ 1.2	16,513	△ 1.4

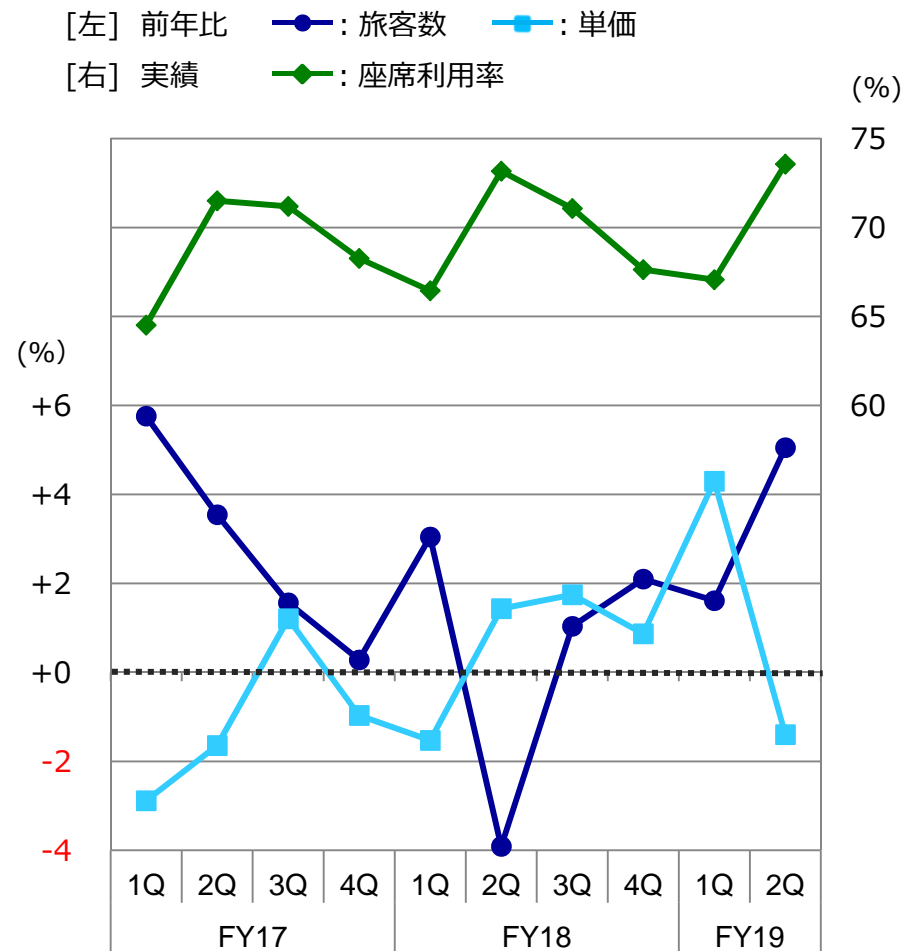
\* 座席利用率のみ前年差

## ANA国内旅客（事業動向）

## 第2四半期累計 収入増減要因



## 四半期別 実績推移



## ANA国際貨物（ベリー＋フレighter）

	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年比(%)	FY2019 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	3,590	3,595	+ 0.2	1,803	+ 0.6
有償貨物トンキロ（百万）	2,253	2,082	△ 7.6	1,048	△ 6.3
貨物輸送重量（千トン）	483	433	△ 10.5	219	△ 7.6
貨物重量利用率（%）	62.8	57.9	△ 4.9pt*	58.1	△ 4.3pt*
貨物収入（億円）	642	511	△ 20.4	249	△ 22.4
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	17.9	14.2	△ 20.5	13.9	△ 22.9
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	28.5	24.6	△ 13.8	23.8	△ 17.2
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	133	118	△ 11.1	114	△ 16.0

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国際貨物（フレイターのみ）

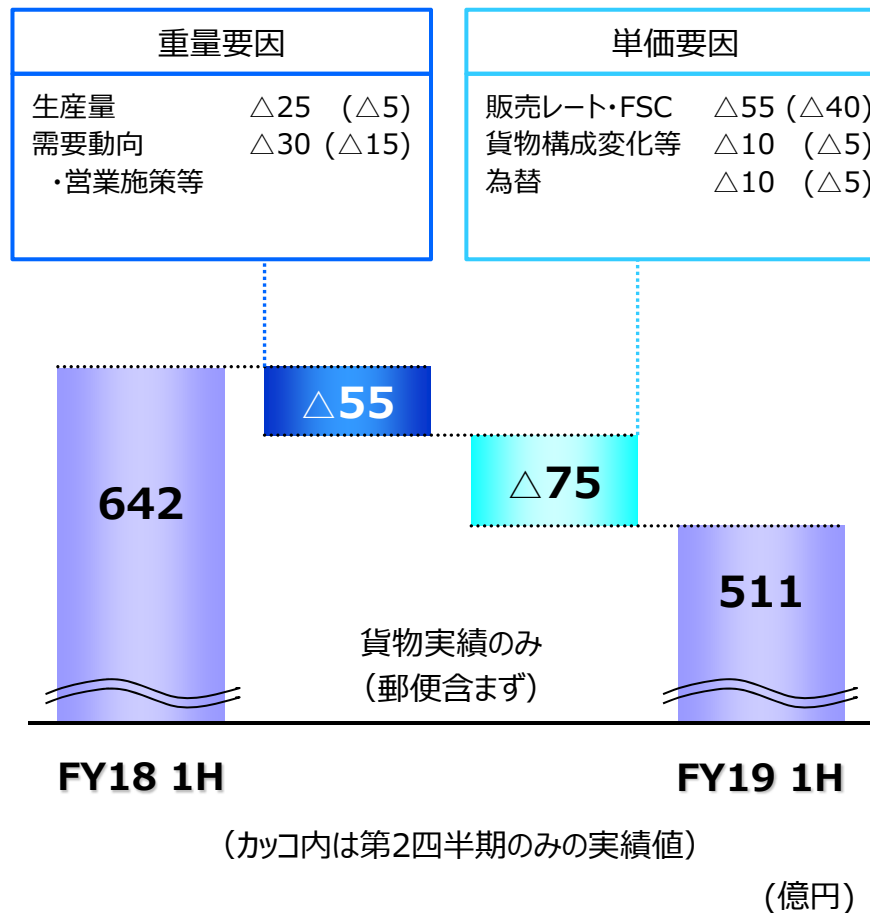
本表のデータは、P.27記載実績の内数

	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年比(%)	FY2019 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ（百万）	607	712	+ 17.4	362	+ 21.0
有償貨物トンキロ（百万）	422	451	+ 6.9	227	+ 10.3
貨物輸送重量（千トン）	177	161	△ 9.5	81	△ 3.1
貨物重量利用率（%）	69.6	63.3	△ 6.2pt*	62.8	△ 6.1pt*
貨物収入（億円）	182	155	△ 14.8	76	△ 15.8
ユニットレベニュー（円） （貨物収入／有効貨物トンキロ）	30.1	21.9	△ 27.4	21.0	△ 30.4
イールド（円） （貨物収入／有償貨物トンキロ）	43.3	34.5	△ 20.3	33.5	△ 23.7
重量単価（円/kg） （貨物収入／貨物輸送重量）	103	97	△ 5.9	93	△ 13.1

\* 貨物重量利用率のみ前年差

## ANA国際貨物（事業動向）

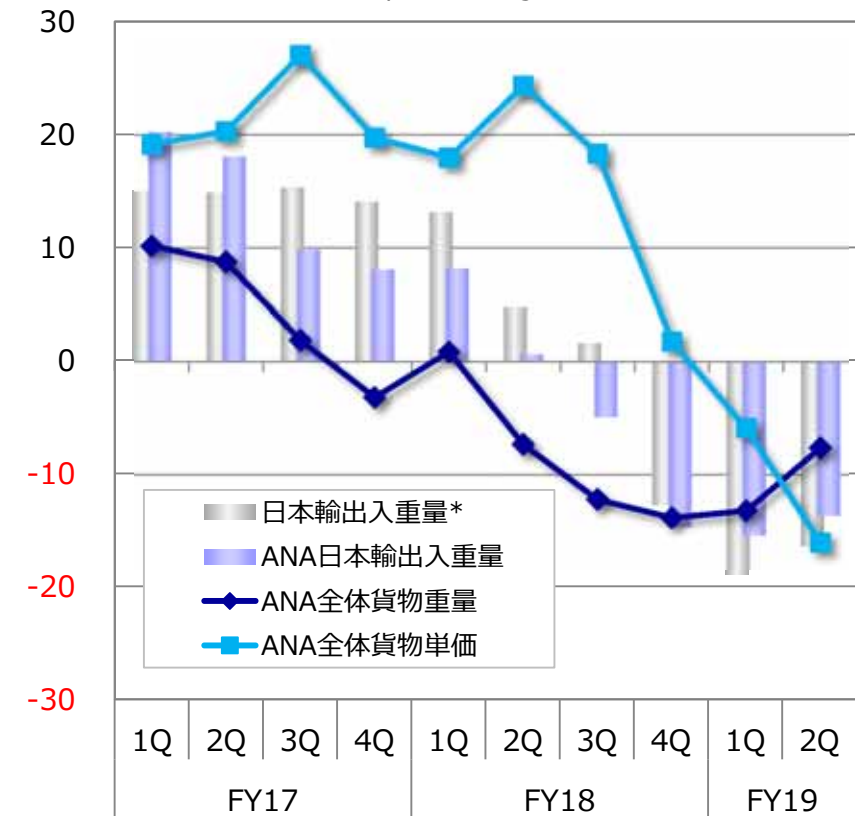
## 第2四半期累計 収入増減要因



## 四半期別 実績推移

(前年比：%)

\* Japan Aircargo Forwarders Association



## ANA国内貨物

	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年比(%)	FY2019 第2四半期	前年比(%)
有効貨物トンキロ (百万)	868	896	+ 3.1	467	+ 5.7
有償貨物トンキロ (百万)	205	191	△ 6.4	98	△ 6.0
貨物輸送重量 (千トン)	197	185	△ 6.2	96	△ 5.1
貨物重量利用率 (%)	23.6	21.4	△ 2.2pt*	21.1	△ 2.6pt*
貨物収入 (億円)	140	126	△ 9.9	64	△ 7.0
ユニットレベニュー (円) (貨物収入/有効貨物トンキロ)	16.1	14.1	△ 12.6	13.9	△ 12.0
イールド (円) (貨物収入/有償貨物トンキロ)	68.3	65.8	△ 3.7	65.7	△ 1.1
重量単価 (円/kg) (貨物収入/貨物輸送重量)	71	68	△ 3.9	67	△ 2.0

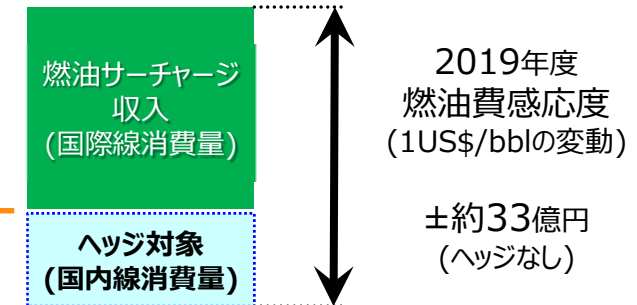
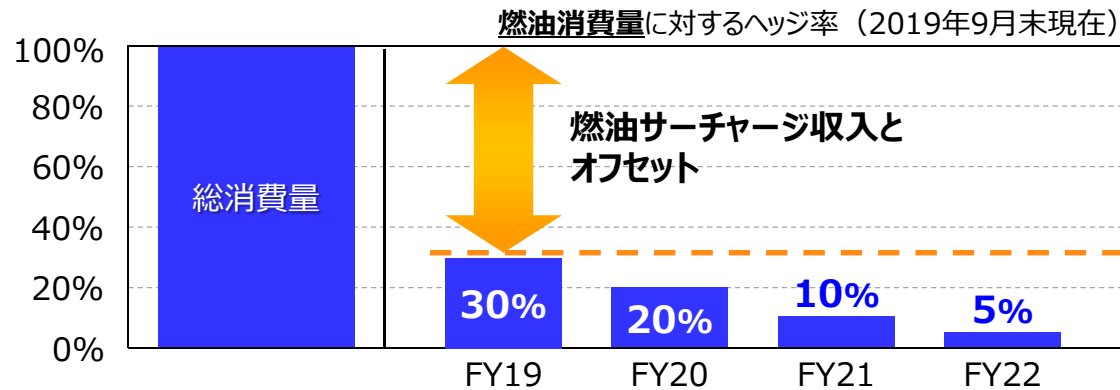
\* 貨物重量利用率のみ前年差

## 燃油・為替ヘッジ (ANA)

### 1. 燃油ヘッジ 基本方針

- 国内線消費量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）
- 国際線消費量は原則としてヘッジ対象外（燃油サーチャージ収入で対応）

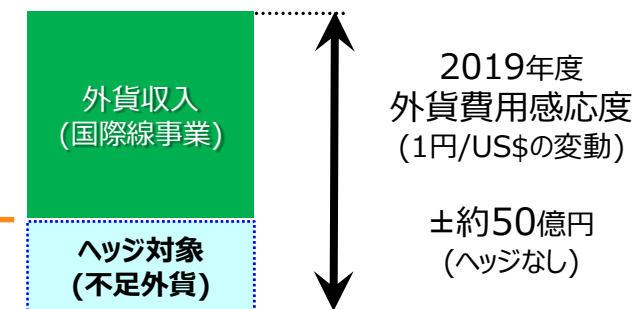
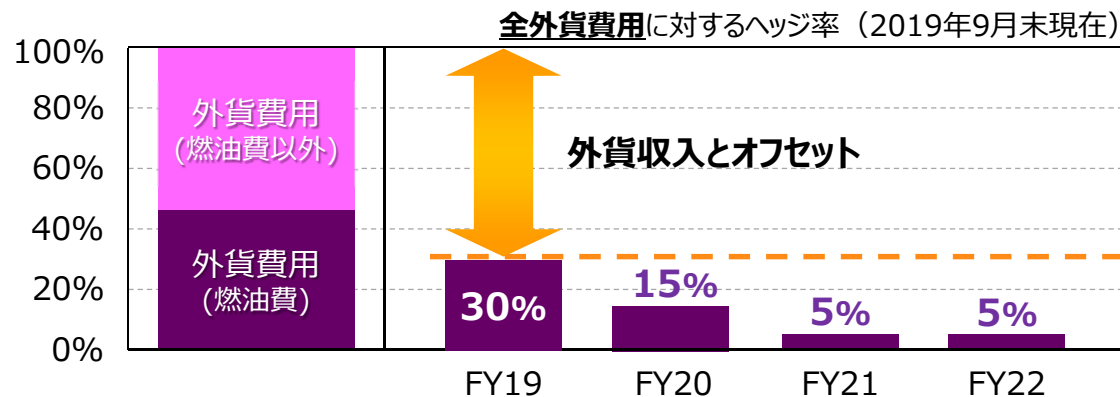
(US\$/bbl)	FY19上期実績	FY19 前提
ドバイ原油	64.3	65
シンガポールケロシン	78.3	80



### 2. 為替ヘッジ 基本方針

- 不足する外貨量を対象にヘッジ（3年前から取引開始）

(円/US\$)	FY19上期実績	FY19 前提
ドル円レート	108.6	110



Intentionally Left Blank



## LCC

(Peach Aviation、バニラエア 合計)	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年比(%)	FY2019 第2四半期	前年比(%)
座席キロ (百万)	6,000	5,858	△ 2.4	2,985	△ 2.2
旅客キロ (百万)	5,228	5,090	△ 2.6	2,627	△ 2.0
旅客数 (千人)	4,067	3,995	△ 1.8	2,054	△ 0.8
座席利用率 (%)	87.1	86.9	△ 0.3pt*	88.0	+ 0.2pt*
売上高 (億円) **	483	461	△ 4.6	255	△ 6.2
ユニットレベニュー (円) (売上高/座席キロ)	8.1	7.9	△ 2.3	8.5	△ 4.1
イールド (円) (売上高/旅客キロ)	9.3	9.1	△ 2.0	9.7	△ 4.2
単価 (円) (売上高/旅客数)	11,898	11,557	△ 2.9	12,427	△ 5.4

\* 座席利用率のみ前年差

\*\* 売上高に付帯収入を含む

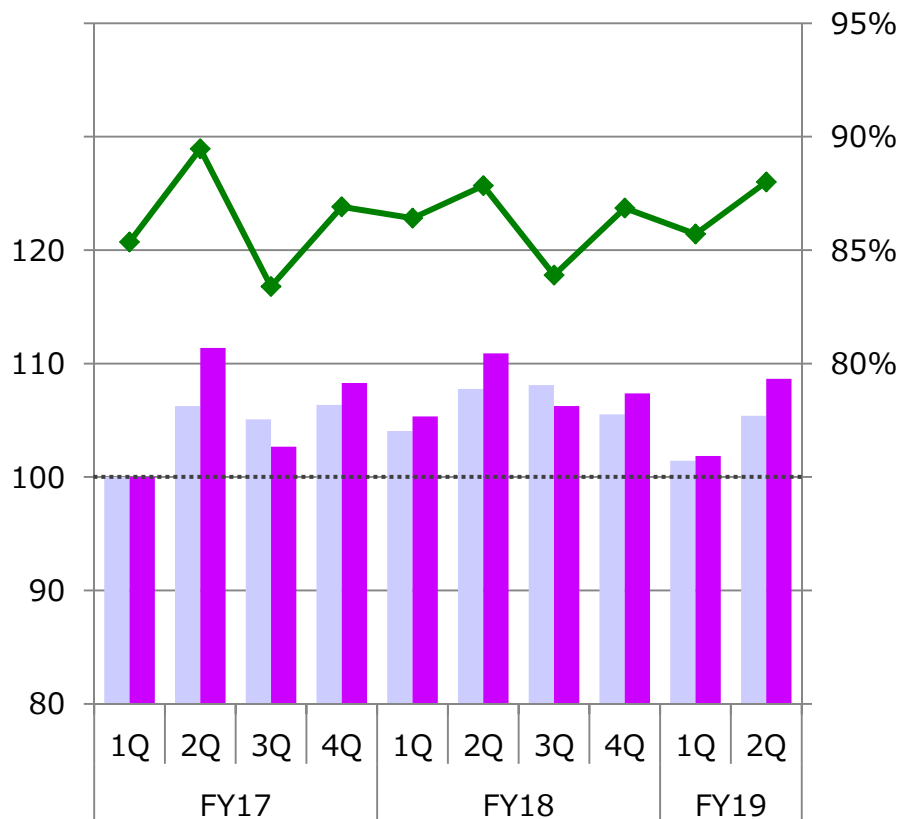
## LCC（事業動向）

(Peach Aviation、バニラエア 合計)

## 四半期別 実績推移

## 直近のトピック

[左] 指数 (FY17 1Q=100)    ■ : 座席キロ    ■ : 旅客キロ  
 [右] 実績                      ◆ : 座席利用率



## ➤ 路線移管 (バニラエア → Peach Aviation)

2019. 9. 1~ 成田 - 札幌

2019.10. 1~ 成田 - 奄美

2019.10.27~ 成田 - 台北

成田 - 高雄

2019.11.25~ 福岡 - 台北

2019.12.26~ 成田 - 石垣

関西 - 奄美

## ➤ 増便

2019.12.26~ 関西 - 石垣 (1往復/日 → 2往復/日)

## 航空事業以外のセグメント

(億円)	航空関連事業			旅行事業		
	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差
売上高	1,452	1,490	+ 37	797	823	+ 26
営業利益	76	74	△ 2	6	13	+ 6
減価償却費	22	26	+ 4	2	2	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	98	100	+ 1	9	16	+ 6
EBITDAマージン(%)	6.8	6.7	△ 0.1pt	1.2	2.0	+ 0.8pt

	商社事業			その他		
	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差	FY2018 第2四半期累計	FY2019 第2四半期累計	前年差
売上高	750	759	+ 8	194	209	+ 15
営業利益	17	19	+ 1	12	15	+ 3
減価償却費	6	6	△ 0	1	1	+ 0
EBITDA (営業利益+減価償却費)	24	25	+ 1	13	16	+ 3
EBITDAマージン(%)	3.2	3.3	+ 0.1pt	6.9	8.0	+ 1.1pt

Intentionally Left Blank

### 3. 2019年度 通期業績予想（詳細）



## 連結業績予想

\* 2019年4月26日開示の業績予想

(億円)	FY2018	FY2019 (修正予想)	前年差	FY2019 当初予想*
売上高	20,583	20,900	+ 316	21,500
営業費用	18,932	19,500	+ 567	19,850
営業利益	1,650	1,400	△ 250	1,650
営業利益率(%)	8.0	6.7	△ 1.3pt	7.7
経常利益	1,566	1,370	△ 196	1,600
親会社株主に帰属する 当期純利益	1,107	940	△ 167	1,080

市況	FY2019 当初前提	FY2019 上期実績	FY2019 下期前提
為替レート (円/US\$)	110	108.6	110
ドバイ原油 (US\$/bbl)	65	64.3	65
シンガポールケロシン (US\$/bbl)	80	78.3	80

## セグメント別 計画

\* 2019年4月26日開示の業績予想

(億円)	FY2018	FY2019 (修正予想)	前年差	FY2019 当初予想*	
売上高	航空事業	18,144	18,600	+ 455	19,100
	航空関連事業	2,910	2,930	+ 19	2,920
	旅行事業	1,507	1,560	+ 52	1,670
	商社事業	1,506	1,560	+ 53	1,650
	その他	409	430	+ 20	420
	調整額	△ 3,895	△ 4,180	△ 284	△ 4,260
	合計 (連結)	20,583	20,900	+ 316	21,500
営業利益	航空事業	1,605	1,360	△ 245	1,600
	航空関連事業	131	105	△ 26	105
	旅行事業	6	20	+ 13	25
	商社事業	37	40	+ 2	50
	その他	22	25	+ 2	20
	調整額	△ 153	△ 150	+ 3	△ 150
	合計 (連結)	1,650	1,400	△ 250	1,650

## 航空事業 売上高・営業費用 計画

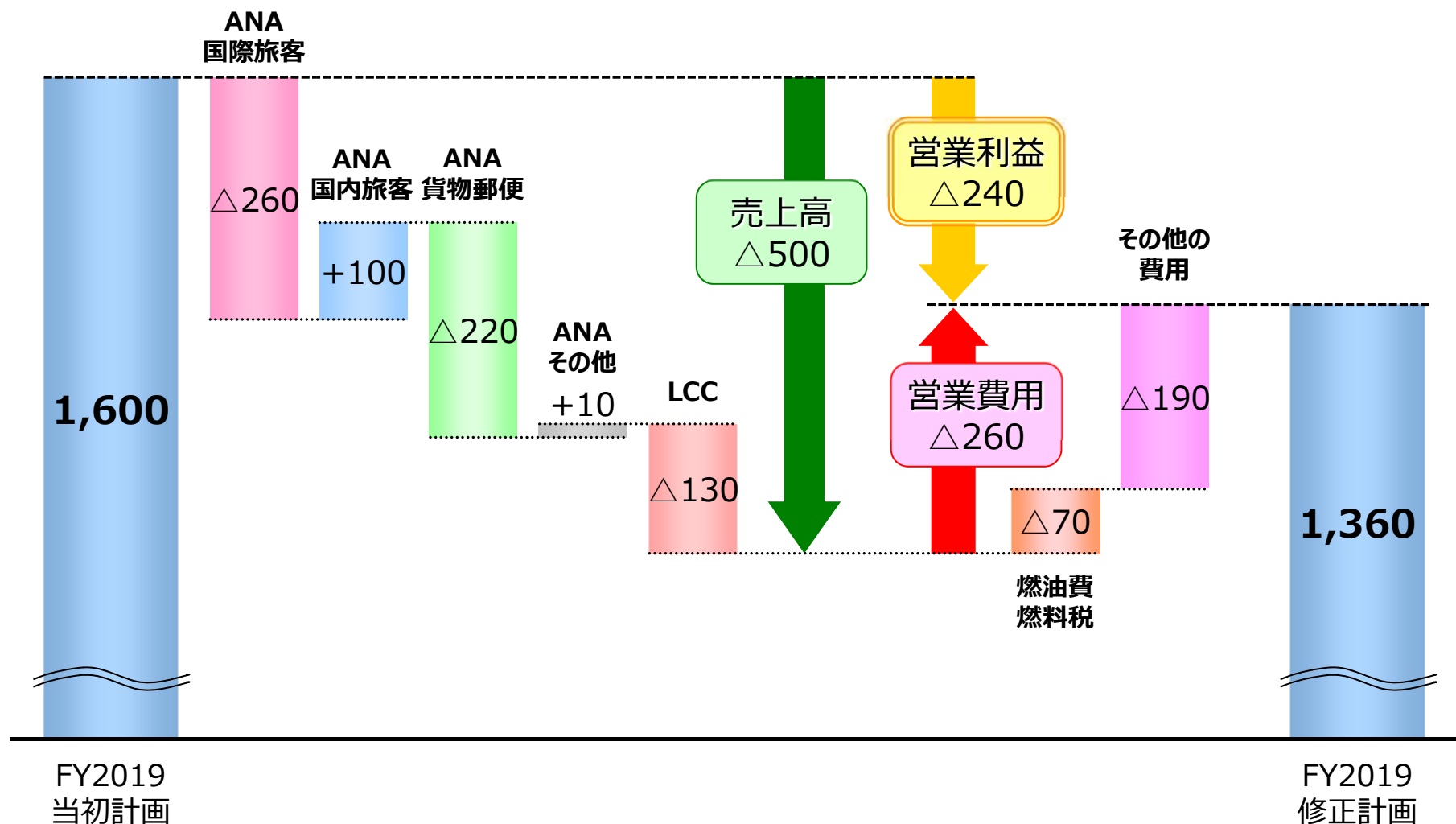
\* 2019年4月26日開示の業績予想

(億円)		FY2018	FY2019 (修正予想)	前年差	FY2019 当初予想*
売上高	ANA 国際旅客	6,515	6,810	+ 294	7,070
	ANA 国内旅客	6,966	7,150	+ 183	7,050
	ANA 貨物郵便	1,607	1,470	△ 137	1,690
	ANA その他	2,118	2,280	+ 161	2,270
	LCC	936	890	△ 46	1,020
	合計	18,144	18,600	+ 455	19,100
営業費用	燃油費・燃料税	3,337	3,330	△ 7	3,400
	燃油費・燃料税 以外	13,201	13,910	+ 708	14,100
	合計	16,538	17,240	+ 701	17,500
営業利益	営業利益	1,605	1,360	△ 245	1,600



## 航空事業 営業利益（当初計画との差異）

(億円)



Intentionally Left Blank

## 計画前提 (ANA旅客事業)

数値は前年比表示

\* 実数値・(前年差)表示

\*\* 実数値・(前年比)表示

	国際旅客			国内旅客		
	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)
座席キロ	+ 4.7	+ 10.5	+ 7.6	+ 3.0	△ 1.2	+ 0.9
旅客キロ	+ 3.9	+ 11.4	+ 7.6	+ 3.8	△ 0.6	+ 1.6
旅客数	△ 0.0	+ 10.3	+ 5.0	+ 3.4	+ 0.1	+ 1.8
座席利用率(%)*	76.8 (△0.6pt)	77.1 (+0.6pt)	77.0 (+0.0pt)	70.4 (+0.6pt)	69.8 (+0.5pt)	70.1 (+0.5pt)
ユニットレベニュー(円)** (旅客収入/座席キロ)	9.7 (△ 2.4)	9.5 (△ 3.3)	9.6 (△ 2.9)	12.2 (+ 1.6)	12.1 (+ 1.9)	12.1 (+ 1.8)
イールド(円)** (旅客収入/旅客キロ)	12.6 (△ 1.6)	12.3 (△ 4.1)	12.5 (△ 2.9)	17.3 (+ 0.8)	17.3 (+ 1.2)	17.3 (+ 1.0)
単価(円)** (旅客収入/旅客数)	65,453 (+ 2.3)	63,130 (△ 3.1)	64,264 (△ 0.5)	15,961 (+ 1.2)	15,747 (+ 0.6)	15,857 (+ 0.9)

## 計画前提 (ANA貨物事業)

数値は前年比表示 * 実数値・(前年差)表示 ** 実数値・(前年比)表示	国際貨物			国内貨物		
	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)
有効貨物トンキロ (※)	+ 0.2	+ 6.7	+ 3.4	+ 3.1	△ 5.3	△ 1.0
有償貨物トンキロ	△ 7.6	+ 13.4	+ 2.5	△ 6.4	+4.1	△ 1.2
貨物輸送重量	△ 10.5	+9.2	△ 1.2	△ 6.2	+ 3.1	△ 1.6
重量利用率(%)*	57.9 (△4.9pt)	62.2 (+3.7pt)	60.1 (△0.5pt)	21.4 (△2.2pt)	26.2 (+2.4pt)	23.7 (△0.0pt)
ユニットレベニュー(円)** (貨物収入/有効貨物トンキロ)	14.2 (△ 20.5)	16.3 (△ 5.4)	15.3 (△ 13.0)	14.1 (△ 12.6)	17.1 (+ 8.0)	15.5 (△ 2.9)
イールド(円)** (貨物収入/有償貨物トンキロ)	24.6 (△ 13.8)	26.2 (△ 11.1)	25.4 (△ 12.2)	65.8 (△ 3.7)	65.0 (△ 1.7)	65.4 (△ 2.8)
単価(円)** (貨物収入/貨物輸送重量)	118 (△ 11.1)	131 (△ 7.6)	125 (△ 8.9)	68 (△ 3.9)	68 (△ 0.7)	68 (△ 2.4)

※有効貨物トンキロの計画値は、B787運航便における搭載制限の影響を控除して算定しています。

## 計画前提（LCC事業）

(Peach Aviation・バニラエア 合計)

	LCC		
	上期(実績)	下期(計画)	通期(予想)
座席キロ	△ 2.4	△ 3.4	△ 2.9
旅客キロ	△ 2.6	+ 0.9	△ 0.9
旅客数	△ 1.8	△ 0.1	△ 0.9
座席利用率(%)*	86.9 (△0.3pt)	89.1 (+3.8pt)	88.0 (+1.8pt)
ユニットレベニュー(円)** (売上高/座席キロ)	7.9 (△ 2.3)	7.3 (△ 2.6)	7.6 (△ 2.4)
イールド(円)** (売上高/旅客キロ)	9.1 (△ 2.0)	8.2 (△ 6.7)	8.6 (△ 4.4)
単価(円)** (売上高/旅客数)	11,557 (△ 2.9)	10,426 (△ 5.8)	10,986 (△ 4.3)

数値は前年比表示

\* 実数値・(前年差)表示

\*\* 実数値・(前年比)表示

Intentionally Left Blank

## 4. 補足資料



## 航空機数



	FY2018 期末	FY2019 第2四半期末	前年度 期末差	保有機数	リース機数
Airbus A380-800	1	2	+ 1	2	-
Boeing 777-300/-300ER	29	31	+ 2	26	5
Boeing 777-200/-200ER	20	20	-	16	4
Boeing 777-F	0	2	+ 2	2	-
Boeing 787-10	1	2	+ 1	2	-
Boeing 787-9	30	33	+ 3	28	5
Boeing 787-8	36	36	-	31	5
Boeing 767-300/-300ER	29	25	△ 4	20	5
Boeing 767-300F/-300BCF	12	11	△ 1	8	3
Airbus A321-200neo	11	11	-	-	11
Airbus A321-200	4	4	-	-	4
Airbus A320-200neo	9	9	-	9	-
Airbus A320-200	5	2	△ 3	2	-
Boeing 737-800	40	40	-	25	15
Boeing 737-700	7	8	+ 1	8	-
Boeing 737-500	7	4	△ 3	4	-
Bombardier DHC-8-400	24	24	-	24	-
<b>ANA 計</b>	<b>265</b>	<b>264</b>	<b>△ 1</b>	<b>207</b>	<b>57</b>
Airbus A320-200*	39	36	△ 3	-	36
<b>ANAグループ 計</b>	<b>304</b>	<b>300</b>	<b>△ 4</b>	<b>207</b>	<b>93</b>



\*バニラエアからPeach Aviationへの移管に伴い改修中の機材等を含まない



## ANA国際旅客 方面別実績（構成比）

	FY2019 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2019 第2四半期 構成比	前年差	
旅客収入	北米	30.2	△ 0.4	29.7	△ 0.8
	欧州	20.4	+ 0.5	20.2	+ 0.3
	中国	14.5	△ 1.1	14.8	△ 1.5
	アジア・オセアニア	28.6	△ 0.4	27.6	△ 0.5
	ハワイ	6.4	+ 1.4	7.8	+ 2.5
座席キロ	北米	32.0	△ 1.4	31.5	△ 1.6
	欧州	17.2	+ 1.7	16.8	+ 1.3
	中国	9.5	△ 1.0	9.4	△ 1.0
	アジア・オセアニア	35.1	△ 0.5	35.1	△ 0.8
	ハワイ	6.1	+ 1.2	7.1	+ 2.1
旅客キロ	北米	33.1	+ 0.1	32.8	△ 0.0
	欧州	17.2	+ 0.8	16.9	+ 0.3
	中国	9.7	△ 1.1	9.6	△ 1.5
	アジア・オセアニア	33.3	△ 1.0	32.7	△ 1.1
	ハワイ	6.8	+ 1.3	7.9	+ 2.3

## ANA国際貨物 方面別実績（構成比）

	FY2019 第2四半期累計 構成比	前年差	FY2019 第2四半期 構成比	前年差	
貨物収入	北米	35.9	+ 1.3	35.1	+ 0.4
	欧州	15.1	+ 0.5	15.2	+ 0.5
	中国	22.1	△ 1.4	22.6	△ 1.0
	アジア・オセアニア	23.5	△ 0.2	23.5	△ 0.2
	その他	3.5	△ 0.1	3.6	+ 0.3
有効貨物 トンキロ	北米	44.2	+ 3.2	44.1	+ 3.4
	欧州	12.4	△ 2.8	12.0	△ 3.4
	中国	13.9	△ 1.1	13.9	△ 0.9
	アジア・オセアニア	27.6	+ 0.6	28.0	+ 0.6
	その他	1.9	+ 0.0	2.0	+ 0.3
有償貨物 トンキロ	北米	42.9	+ 1.2	42.1	+ 0.8
	欧州	17.6	+ 0.3	18.4	+ 0.6
	中国	12.9	△ 0.5	13.2	△ 0.2
	アジア・オセアニア	24.5	△ 0.9	24.4	△ 1.2
	その他	2.0	△ 0.1	1.9	+ 0.1

## LCC 会社別実績

peach	FY2018	FY2019	前年比(%)	FY2019	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ (百万)	3,618	4,429	+ 22.4	2,386	+ 32.3
旅客キロ (百万)	3,179	3,877	+ 22.0	2,096	+ 32.6
旅客数 (千人)	2,711	3,175	+ 17.1	1,703	+ 26.6
座席利用率 (%)	87.9	87.5	△ 0.3pt*	87.8	+ 0.2pt*

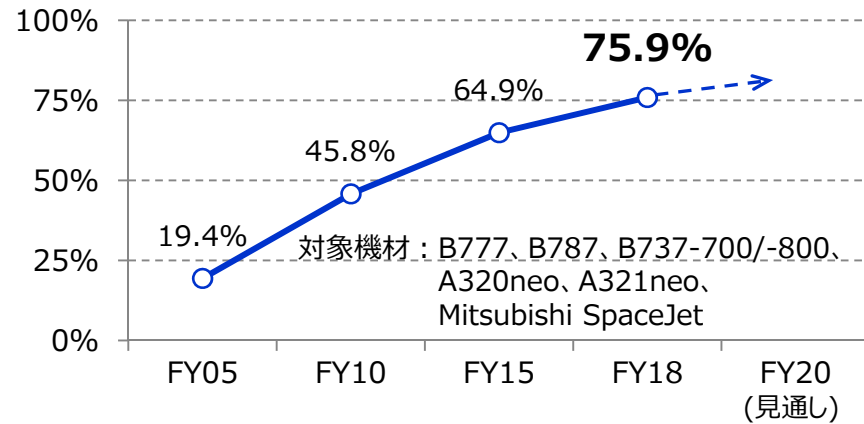
Vanilla Air	FY2018	FY2019	前年比(%)	FY2019	前年比(%)
	第2四半期累計	第2四半期累計		第2四半期	
座席キロ (百万)	2,381	1,428	△ 40.0	598	△ 52.0
旅客キロ (百万)	2,048	1,212	△ 40.8	530	△ 51.7
旅客数 (千人)	1,356	820	△ 39.5	350	△ 51.6
座席利用率 (%)	86.0	84.8	△ 1.2pt*	88.7	+ 0.5pt*

\* 座席利用率のみ前年差

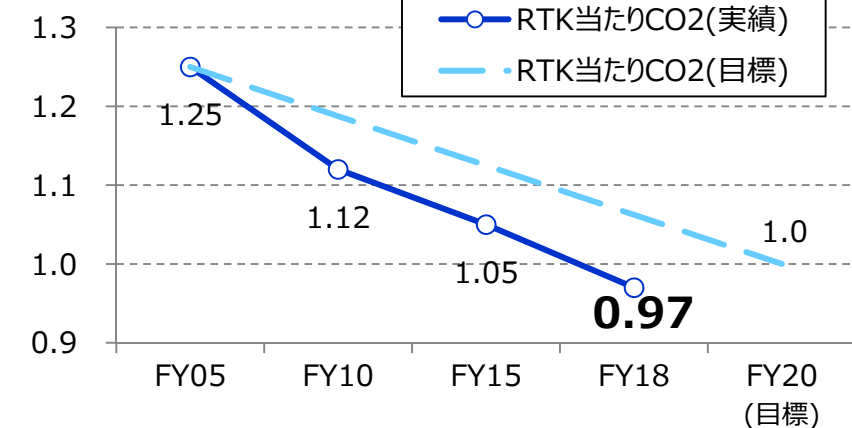
## ESG関連データ

## 環境：Environment

省燃費機材シェア（ANAブランドのジェット機のみ、各年度末）

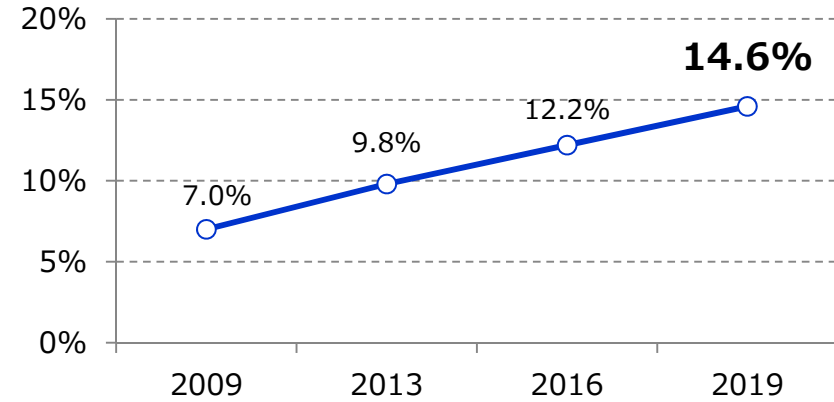


有償輸送トンキロ当たりCO2排出量

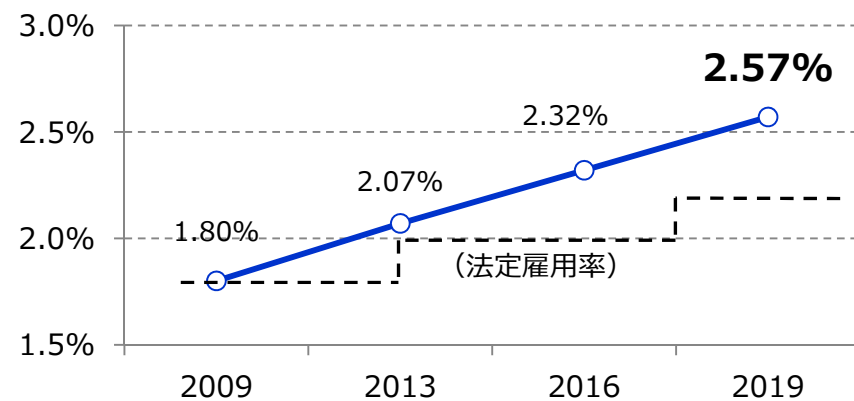
(kg-CO<sub>2</sub>/RTK)

## 社会：Social

女性管理職比率（ANAのみ、60歳以上除く、各年4月1日）



障がい者雇用率（当社グループ認定会社の合算値、各年6月1日）



# Memo



# Memo



グループ経営理念

安心と信頼を基礎に、世界をつなぐ心の翼で夢にあふれる未来に貢献します

グループ安全理念

安全は経営の基盤であり社会への責務である  
 私たちはお互いの理解と信頼のもと確かなしくみで安全を高めていきます  
 私たちは一人ひとりの責任ある誠実な行動により安全を追求します

グループ経営ビジョン

ANAグループは、お客様満足と価値創造で  
 世界のリーディングエアライングループを目指します

グループ行動指針  
 (ANA's Way)

私たちは「あんしん、あったか、あかるく元気！」に、次のように行動します。

1. 安全 (Safety)  
 安全こそ経営の基盤、守り続けます。
2. お客様視点 (Customer Orientation)  
 常にお客様の視点に立って、最高の価値を生み出します。
3. 社会への責任 (Social Responsibility)  
 誠実かつ公正に、より良い社会に貢献します。
4. チームスピリット (Team Spirit)  
 多様性を活かし、真摯に議論し一致して行動します。
5. 努力と挑戦 (Endeavor)  
 グローバルな視野を持って、ひたむきに努力し枠を超えて挑戦します。

## 免責事項

当資料には、弊社の現在の計画、見積り、戦略、確信に基づく見通しについての記述がありますが、歴史的な事実でないものは、全て将来の業績に関わる見通しです。これらは現在入手可能な情報から得られた弊社の判断及び仮説に基づいています。

弊社グループの主要事業である航空事業には、空港使用料、航空機燃料税等、弊社の経営努力では管理不可能な公的負担コストが伴います。また、弊社が事業活動を行っている市場は状況変化が激しく、技術、需要、価格、経済環境の動向、外国為替レートの変動、その他多くの要因により急激な変化が発生する可能性があります。これらのリスクと不確実性のために、将来における弊社の業績は当資料に記述された内容と大きく異なる可能性があります。従って、弊社が設定した目標は、全て実現することを保証するものではありません。

当資料はホームページでもご覧いただけます。

<http://www.ana.co.jp/group/investors>

株主・投資家情報 → I R 資料室 → 決算説明会資料

**ANAホールディングス(株) グループ経理・財務室 財務企画・I R部**

Eメール : [ir@anahd.co.jp](mailto:ir@anahd.co.jp)